

**Preferences of Longevity Annuity:  
Choice Experiments for Male Employees  
(男性現役世代の据置年金への選好：  
選択型実験法を利用した検証) \***

東北学院大学 北村 智紀 ニッセイ基礎研究所 中嶋 邦夫

要旨

本稿は、家計の終身年金や据置年金への選好を分析する。公的年金の給付水準の低下が予測されるなか、家計の自助努力の促進は重要な政策課題である、公的年金を補う金融商品として、終身年金や据置年金が考えられる。そこで本稿では、長寿年金や据置年金への選好について、選択型実験法を利用して分析する。分析の結果、65歳受給開始の終身年金、65歳受給開始の10年満期の有期年金、同20年満期有期年金の家計の主観的評価額はフェアバリューよりも高く、選好される傾向があった。75歳支払い開始の据置終身年金の主観的評価額は、フェアバリューと比較して有意な差がなかった。一方、85歳支払い開始の据置終身年金の主観的評価額は、相当程度、割安に評価されており、選好されていない商品であった。そのため、受給開始が高齢となる据置終身年金を市場に導入することは難しいことが予想され、導入には何らかの政策的なインセンティブが必要であることが示唆される。

キーワード：終身年金、据置年金、家計の選好、選択型実験法

---

\* 本研究は、平成29年度厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)）「公私年金の連携に注目した私的年金の普及と持続可能性に関する国際比較とエビデンスに基づく産学官の横断的研究」（H29-政策-一般-002）の一環として実施した。